

Victory

NO.3

令和3年6月

宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校図書館

6月21日は『夏至』でした。陽暦では、6月22日ごろとされる二十四節気の一つ。北半球では昼が最も長く、夜が最も短くなります。（「新明解国語辞典第五版」より引用）

この頃を境に夏へと季節は移り替わっていきませんが、そのことを告げるかのように数日前、ワシワシと耳に届いたのは、ヒメハルゼミという蝉の声でした。

そういえば、アメリカでは今年「十七年ゼミ」（別名：素数ゼミ）が大発生しているとのこと。あ、ここにも探究のタネが転がっているではないですか！

自然は偉大なり～数えきれないほどの不思議のタネが私たちの身近には落ちているのですね。



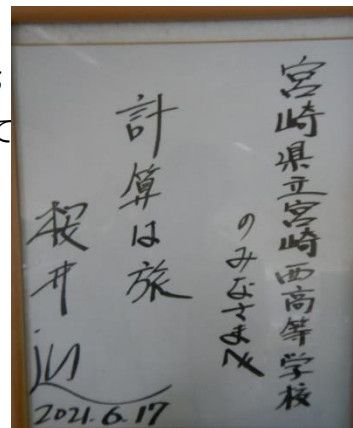
講演会でコラボレーション

6月17日(木)、理数科生および理文クラス生対象の講演会がありました。講師と演題は以下の通りです。

講師：サイエンスナビゲーターの桜井進氏
演題：『小数点「 $.$ 」誕生 402 年記念
数学はマジックだ！』

図書館では、講演会に合わせて桜井氏の著書を集めた特設コーナーを設置しています。なお、県立図書館からも借りています。（マイラインサービス）

なお、桜井氏のサイン色紙とサイン入り著書を寄贈いただきました。著書『世界の見方が変わる「数学」入門』（河出書房新社）は本校蔵書として登録し、貸出可能です。色紙は、コーナー設置中図書館に掲示しています。



【展示図書】

『面白くて眠れなくなる数学』
『超面白くて眠れなくなる数学』
『世界は足し算でできている』
『賢くなる算数39』
『天才たちが愛した美しい数式』
『数と音楽 美しさの源への旅』

『夢中になる！江戸の数学』 『世界の見方が変わる「数学」入門』
『感動する！数学』 『単位のひみつモノの教え方』
『雪月花の数学—日本の美と心をつなぐ「白銀比」の謎』

【参考文献】（県立図書館マイラインサービスで貸出）

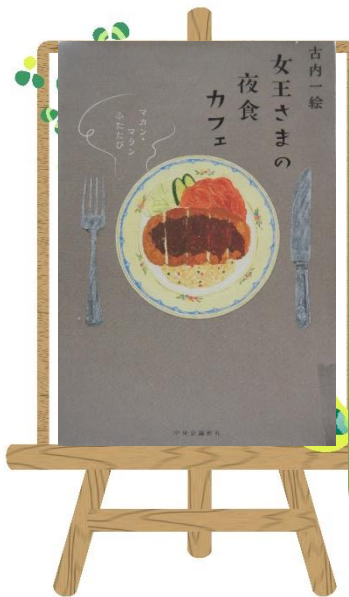
* 『天才たちが愛した美しい数式』 参考資料
『アインシュタインの生涯』
『心は孤独な数学者』
『アインシュタインは語る』
『仁科芳雄』『100人の数学者』
『図説世界の数学の歴史』
『数学100の発見』
『数論とフェルマーの最終定理』





今月の棚からひとつかみ『夏は来ぬ』

●物語世界をほっこり楽しみたい、小説の中の登場人物と思いを共有したい時に。



『女王さまの夜食カフェ マカン・マランふたたび』古内一絵著 (中央公論新社)

913.6フ

私たちは、様々な悩みを抱えながら生きている。漫画家をめざす裕紀もその一人。兄の突然の死がきっかけとなり、老舗旅館の後を継ぐことになるが家族への心のわだかまりに折り合いがつけられずにいる。梅雨の晴れ間に訪れた夜食カフェで、口にしたシンプルな和食と店主シャルの言葉に、裕紀も読者も温かな勇気をもらう。あなたは、誰かの代わりではないのだと。(第2話梅雨の晴れ間の竜田揚げ)

●自然の持つ神秘を突き詰めた時に。

『素数ゼミの謎』吉村仁著

(文芸春秋) 486ヨ

17年あるいは13年に一度大発生し、命のあらん限り一斉に鳴き出す小さなゼミ。17年ゼミあるいは素数ゼミと呼ばれる彼らの不思議で神秘的な生涯から読み取れることとはなんだろう。

17年間、土中で過ごし、地上で過ごすのはほんの数日—この奇妙な生き方に好奇心を抱くもよし、あるいは数学的視点から発展的に読み広げるもよし。

『とてつもない数学』永野裕之著もおすすめ。



図書館の日常 PhotoPhoto

何気ない本校図書館の日常を切り取ってみました。



この日の図書委員は、いつものカウンター業務に加え、出版社発行の冊子の仕分けに忙しい様子。閲覧スペースでは、タブレットを使って課題に取り組む姿あり、自学する姿あり、読書にいそしむ姿あり、はたまたHPの図書委員会ブログの原稿を推敲する姿も。と、それぞれの生徒の日常が繰り広げられている昼休みのひとときなのです。

